

テストをバネに学力を身につけるとはどのようなことか

ーテストを積極的に受ける基礎知識ー

開倫塾

塾長 林 明夫

1. テストは何のために受けるのかを考えよう。

学生という職業に従事する人にとって「テスト」(試験)は避けられません。教え手が教わり手を「テスト」つまり「評価」をする意味はたくさんあると思われそうですが、今回は、学ぶ側つまり学生がテストをどのように受けるべきかを考えてみましょう。

2. テストは、不確かであった自分の学力を確かにするために受けると考えよう。

ものごとに取り組むとき、いやいやながら、被害者になったような気分で消極的にやるのと、その中に積極的な意味を見い出して、自分のため、みんなのためにやるのとでは、行って帰るほどのちがいがあります。まして、一つの科目や一つの分野を勉強するという目に見えない頭の中、精神的な作業の場合には、「心のもちよう」「積極的か消極的か」がその結果にとっても大きな影響を及ぼします。

そこで、一つの科目や分野を習得する場合に必ず行われる何回かのテストを受ける場合にも、教わり手、つまり学ぶ側(学生・生徒)は、テストに積極的な意義を見い出して自分のために一所懸命に取り組む方が、イヤイヤ被害者意識で仕方なくテストの日を迎えるよりは何百倍も高い「学習効果」が期待できると考えられます。

テストを受ける際に学生は次の姿勢で臨むべきであると私は確信します。

「このテストを通じて私はテスト範囲について、今まで不確かであった知識を確かにし、100%完全に身につける。そのために私はこのテストに積極的な姿勢で臨む。」

先生に教わっているときは、はじめてであるから余りよくわからない、不確かであることもある程度は仕方ありません。しかし、一区切りついたところまで終わった後は、大体ここではどんなことを教わるのかわかるし、その内容についてやさしい問題なら解ける位にまでなっています。あとは自分の力で不確かであった知識や理解をゆっくりでもいいから確実に自分のものにする作業をするだけです。都合のよいことに、先生はちょうどそのころを見はからって小さなテストや少し大き目の定期的なテストを用意して下さっていると思えばよいのです。

定められたテストの期日までに、授業で使ったテキストや、先生のことばを書き写したノートを使い十分に不確かであった知識を確かにする作業をまずしなければなりません。くりかえし教科書やノートを読み直し覚えるべきところは覚えることも常識です。もし、一人で教科書とノートを勉強していてわからないところがあったら、辞書や参考書・百科事典などにもあたるのが大事です。そのために学校というところには「図書館」があるのです。それでもよくわからなければ教えて下さった先生を職員室にたずね直接教えて頂くことです。みなさんが就いているのは学生という職業な

のですから、テストのために教科書やノート覚え、図書館でものを調べ、それでもわからなかったら先生に直接たずねに行くことは「常識」です。何のためらいがあってはなりません。

本当に学生にとってよい時期によりテストがよく準備されているなあと、感心するほどです。「テスト」も「文化」の一つかも知れません。

*高校入試は中学時代に行なった勉強の総復習、不確かであった知識や理解を 100 %完全に身につけるために受けるのだと思えばよいのです。事実、日本国民の基礎学力が世界各国に比べここまで高いのも、ほとんど 100 %近くの中学生在が 15 歳の一時期だけかも知れませんが半年近く真剣に文字を書いたり、計算をしたり、基礎的なことをいろいろ勉強してきた結果かも知れません。日本国民の基礎学力の底上げに高校入試は非常に役立ってきているとも考えます。

3. 開倫塾のプレ定期テストの最大活用を

新学年度から開倫塾では、各中学・高校の中間・期末テスト 2 週間前に、プレ定期テストを実施します。学校の中間・期末試験範囲についてテストのおよそ 3 週間前までにほぼ完全に指導し、2 週間前に予想される範囲について出題が予想される基礎的な問題(少しは応用問題も)を解いてもらいます。塾生の皆さんは、定期テストの 3 週間前までにほぼその内容を開倫塾で学校に先立って教わり、2 週間前までに一回目の試験対策を行い、プレ定期テストを受験。もしまちがえたところがあれば、本番試験までのこりの 2 週間で集中的に 2 回目の学習。定期テストで 100 点を取ってもらい、その科目の一定の範囲まで完全に学力を身につけていただく。

このような計画をたて、かなりの準備をこれまで重ねてまいりました。是非、塾生の皆様は、テストの準備勉強を通じて完全な学力を身につけるのだという積極的な姿勢を身につけてもらいたいと希望します。

*開倫塾で行うほとんどすべての試験には、詳細な範囲表が付いております。その範囲表には、教材の名前と、学習すべきページが具体的に記されておりますので、十分活用して頂きたい。出題範囲の項目だけ見て自分で勉強できれば一番いいのですが、教材名とページまで示さないと勉強に手がつかない人もずい分いますので、できるだけ詳細に示させていただきます。

4. テストは終わったあとが大切。問題・解答用紙・解説・資料等すべてのものはキチンとファイルして一定の場所に保存しておくこと。よくできなかつた問題は何回もやり直しておくこと。

あらゆるテストは自分の弱点分野を捜し出してくれる有難いものです。マルのついていないところはすべて自分の弱点分野ですから、自分を向上させてくれる「宝物」とさえ言えます。テストでできなかつたところを自分の「宝物」にするためには、テストに関係するすべてのものを確実にファイルし、キチンと一定の場所に保存する「習慣」を身につけてしまうことが大事です。「問題用紙」「解答用紙」「解説集」「各種データ」等テストに関連したものを、丸めてすててしまわないで、必ずファイルして、保存すること。保存さえしてあればいつでも取り出せます。いつでも弱点分野を勉強し直せます。しかし、とってないことには話にもなにもなりません。勝負ははじめから負けたも同然です。まとめて、必ず決まった場所に保存しておくこと。

間違いノートを科目ごとに作成することが最もよい弱点克服方法です。ノートにまちがった問題を書き写すこと。もう一度やってみること。正解もていねいに書き写すこと。そして、もう一度やってみること。よくわからなければ、教科書や参考書・辞書・百科事典の説明も書きこむこと。似たような問題を、問題集でやってみること。(問題集を使うときはその問題も書き写すこと。)問題

や解説が長すぎて写すのに時間がかかりそうなら、コンビニへ行きコピーをし、間違いノートに切ってはりつけること。

*本当に頭脳がフル回転するのは、試験の直後なので、試験直後の2～3日は遊ばないで、試験範囲の次の項目・分野のところを1～2章予習してしまうのが一番よい。新しい分野を100%完全に理解するためには、その手前までを100%理解することが必要であると言われていますが、これを逆に言えば、その手前まで十分理解していれば、新しいところは一気にマスターできるからです。試験直後が、まさにその時なのですから、遊ぶには本当にもったいないと言えます。元気な人はがんばって下さい。